

アンケート用紙

資料8

無記名アンケート

本日は抗体検査お疲れ様でした。今回の検査について無記名でのアンケートを実施しております。よりよい検査体制を考えていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

A 過去の検査についてお聞きします。

1) あなたは今までにH I V抗体検査を受けた事がありますか。

①ある ②ない

2) 1) で「ある」とお答えになった方にお尋ねします。その時の検査説明は十分されていきましたか。

①十分であった ②どちらでもない ③不十分であった

B 今日の説明を受けられた後のHIVについての印象などをお聞かせください。

あなたは説明を聞いた前と後で、H I Vに対するイメージが変わりましたか？前後を比較して○をつけてください。

前

良い 普通 少し 悪い 非常に
悪い 悪い

後

良い 普通 少し 悪い 非常に
悪い 悪い

C HIV抗体検査の説明と検査の実施についての感想をお聞かせください。

1) 説明内容について

①よく理解できた ②半分くらい理解できた ③理解できなかった
④その他 ()

2) 説明を担当した者の態度について

①丁寧だった ②どちらとも言えない ③不快だった
④その他 ()

3) 説明時間について。

①ちょうど良い長さだ ②長い ③短い

D 結果説明の実施について感想をお聞かせください。

1) 説明内容について。

①よく理解できた ②半分位理解できた ③理解できなかった
④その他 ()

2) 説明を担当した者の態度について

①丁寧だった ②どちらとも言えない ③不快だった
④その他 ()

3) 説明時間について。

①ちょうど良い長さだ ②長い ③短い

4) 検査結果が当日聞けることについて

①良い ②関係ない ③遅くても良い

E 検査結果を聞くまでのどのように感じられましたか。

①不安だった ②どちらとも言えない ③不安に感じなかった
④その他 ()

F 1) 個室で1人1人対応することについて

①安心した ②どちらとも言えない ③不快だった

2) 今回このようなシステムでの検査をうけてみてどのように感じられましたか。

()

G 今回検査説明を聞いて

1) 御主人・パートナーにもH I V抗体検査を受けるようすすめてみようと思いませんか。

①すすめてみようと思う ②どちらとも言えない ③思わない

2) これからセーフター・セックス（一コンドームの使用）を心がけようと思いませんか。

①思う ②どちらとも言えない ③思わない

ご感想、ご要望等ありましたらお聞かせ下さい。

()

ご協力ありがとうございました

アンケート結果

図1 今までのHIV抗体検査の利用経験(N=575)

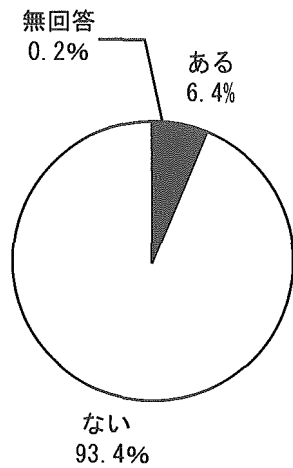


図2 今までの抗体検査経験者の検査説明への評価(N=36)

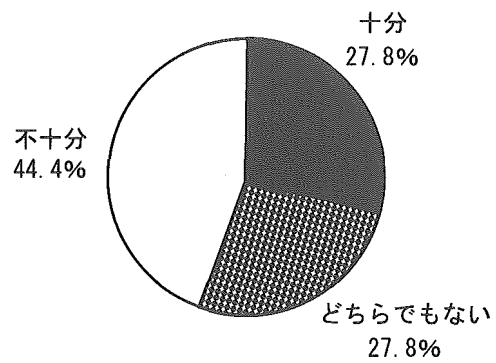


図3 今回のHIV抗体検査利用者による検査前のHIV/AIDSに対するイメージ(N=575)

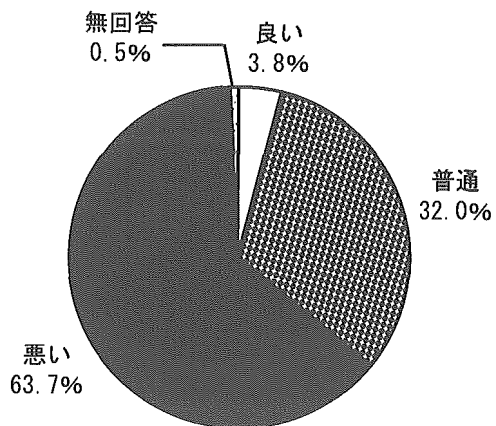


図4 今回のHIV抗体検査利用者による検査後のHIV/AIDSに対するイメージ(N=575)

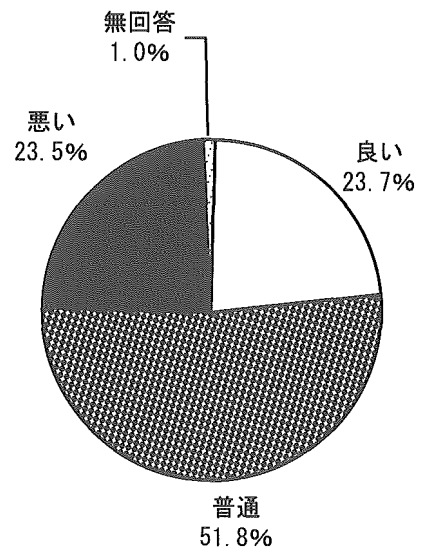


図5 HIV抗体検査の説明と検査の実施
についての感想 (N=575)

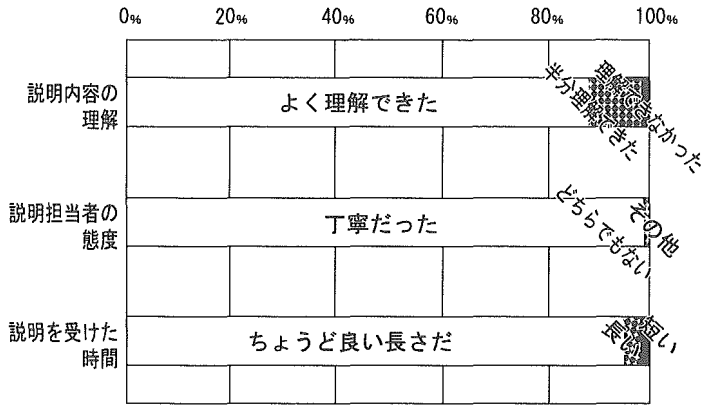


図6 結果説明の実施についての感想 (N=575)

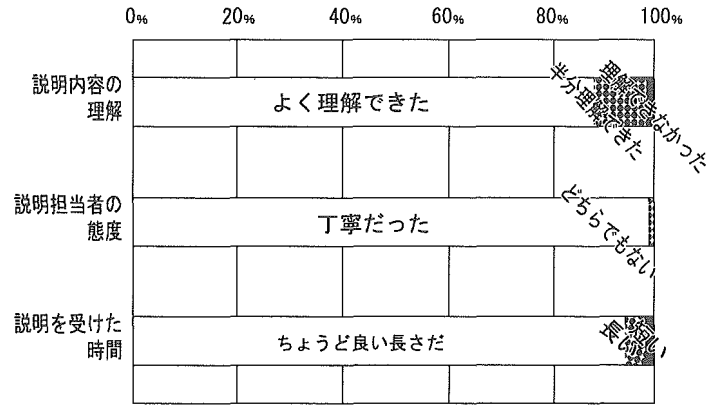


図7 検査結果が当日聞ける
ことについてどうか (N=575)

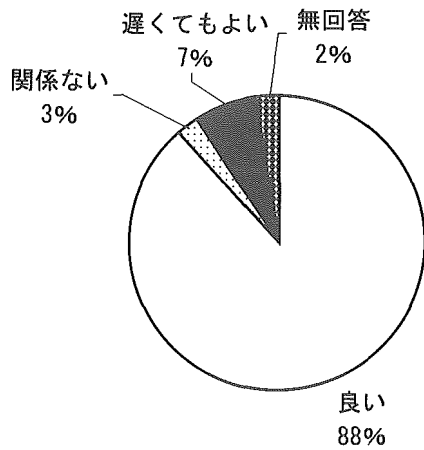


図8 検査結果を聞くまで
どんな感じだったか (N=575)

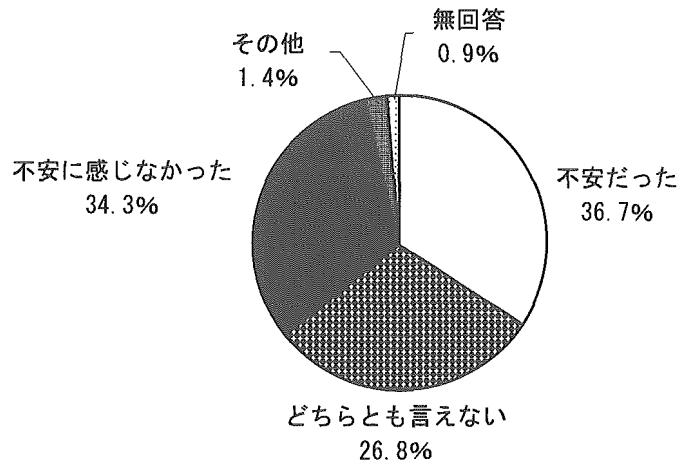
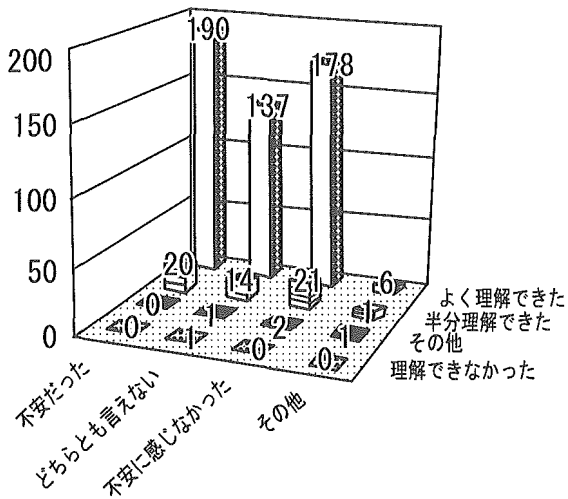


図9 検査前の説明内容の理解度と検査結果を聞くまでの不安の有無 (N=575)



検査前の説明担当者の態度にたいする印象と検査結果を聞くまでの不安の有無 (N=575)

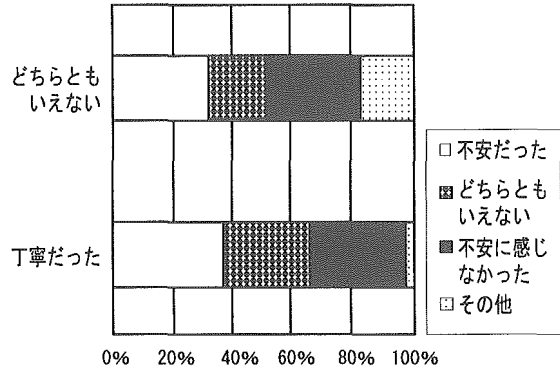


図11 検査聞くまでの聞くまでの不安の有無と当日検査結果が聞けることについて評価 (N=575)

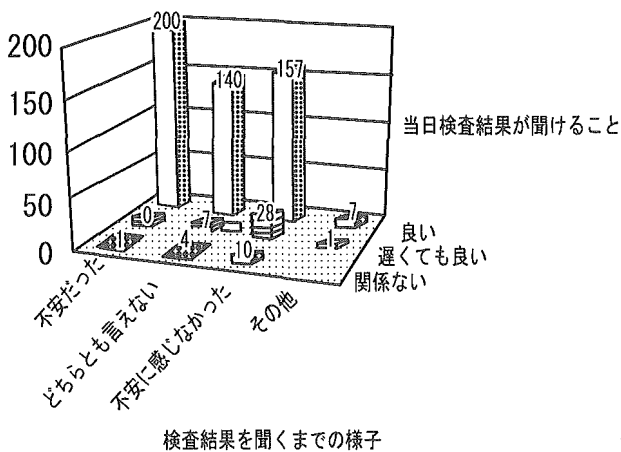


図12 検査結果を聞くまでの様子と検査後でのHIVにたいするイメージのクロス集計 (N=575)

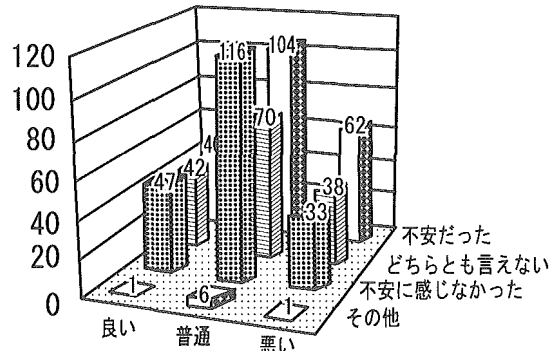


図13 今までの抗体検査の利用経験と検査結果を聞くまでの不安の有無 (N=575)

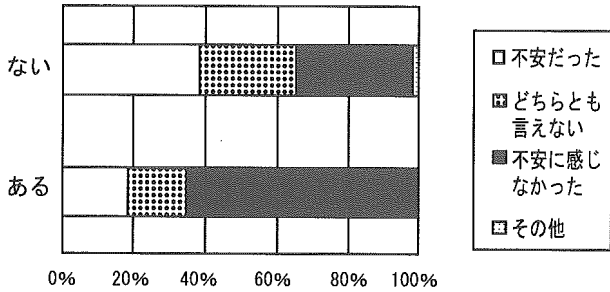


図14 個室における対応についての利用者の評価 (N=575)

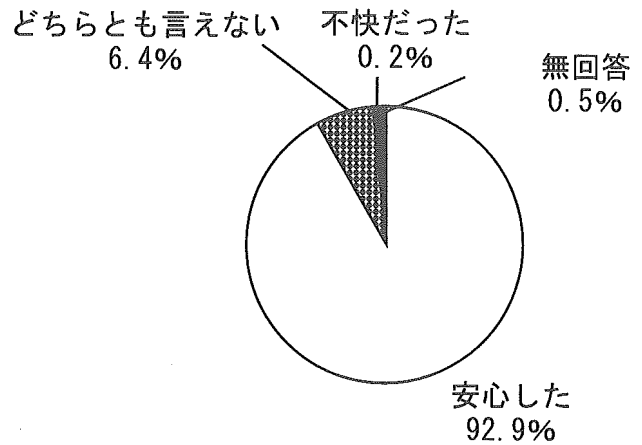


図15 個室対応に対する評価と検査結果を聞くまでの不安の有無 (N=575)

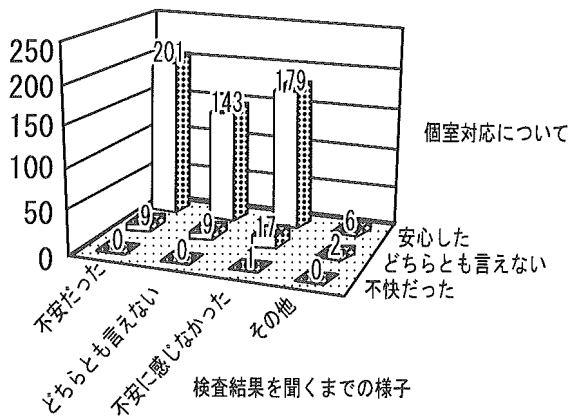


図16 今回のHIV抗体検査に対する利用者の評価 (N=71)

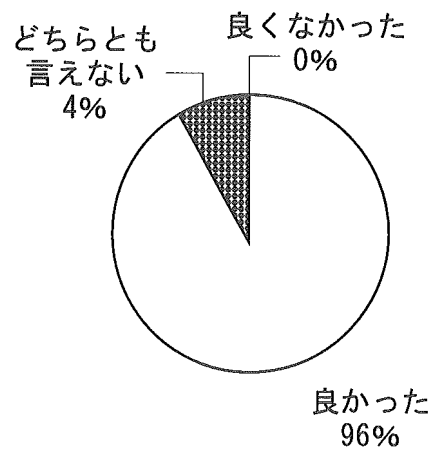


図17 パートナーへのHIV抗体検査の
勧奨意向の有無 (N=504)

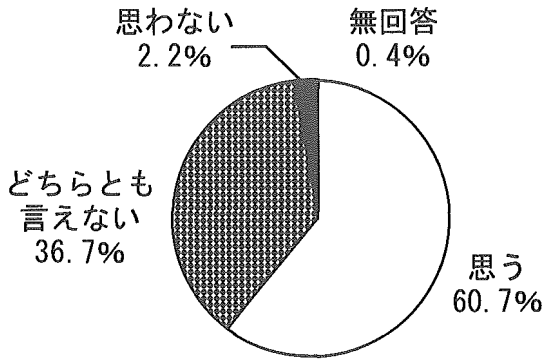


図18 抗体検査の説明内容の理解度と
パートナーへの勧奨意向の有無 (N=504)

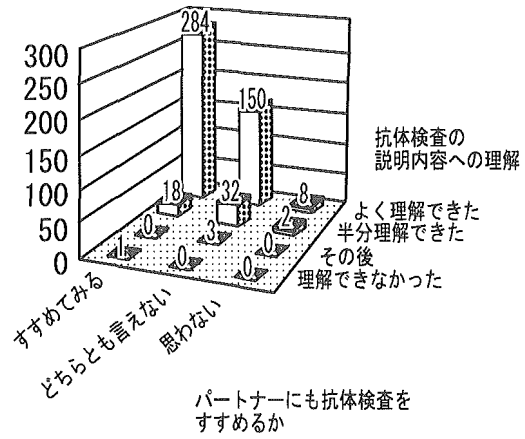


図19 検査結果の説明内容の理解度と
パートナーへの抗体検査の勧奨意向 (N=504)

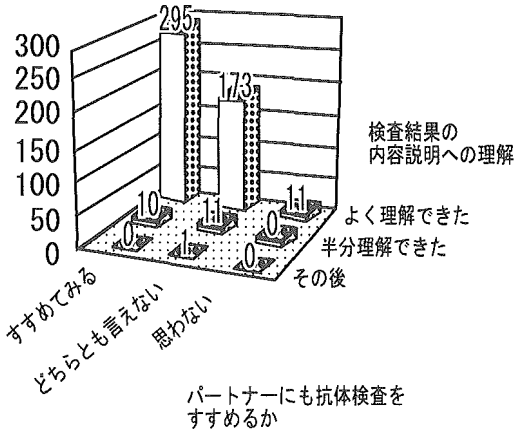


図20 抗体検査前の説明担当者の態度と
パートナーへの抗体検査の勧奨意向 (N=504)

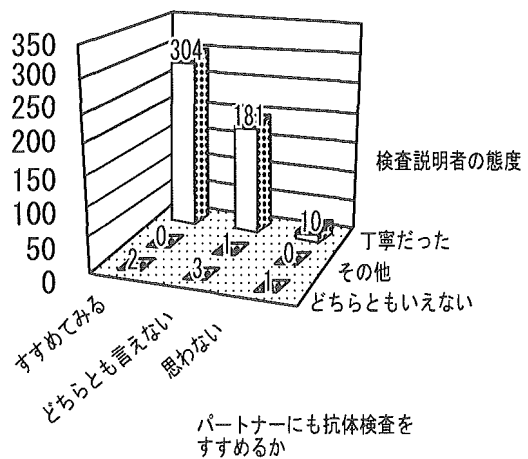


図21 抗体検査後の結果説明担当者の態度とパートナーへの抗体検査の勧奨意向(N=504)

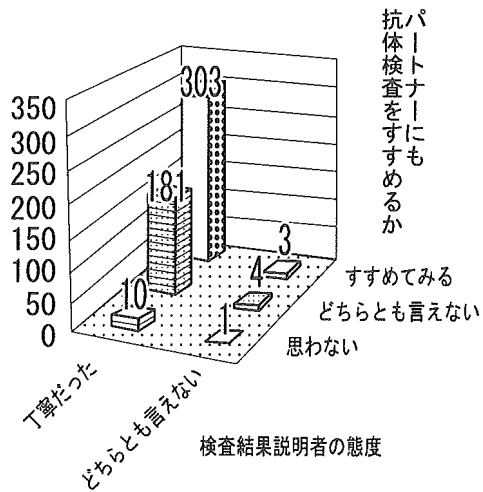


図22 検査結果を聞くまでの不安の有無とパートナーへのHIV抗体検査の利用勧奨意向(N=504)

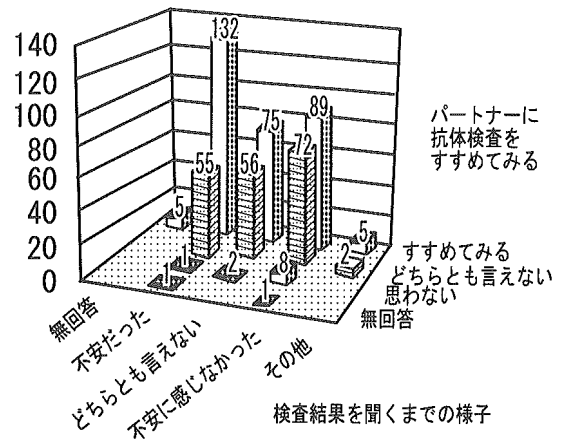


図23 今後のセーファーセックスへの姿勢(コンドームを使用しようと思うか)(N=504)

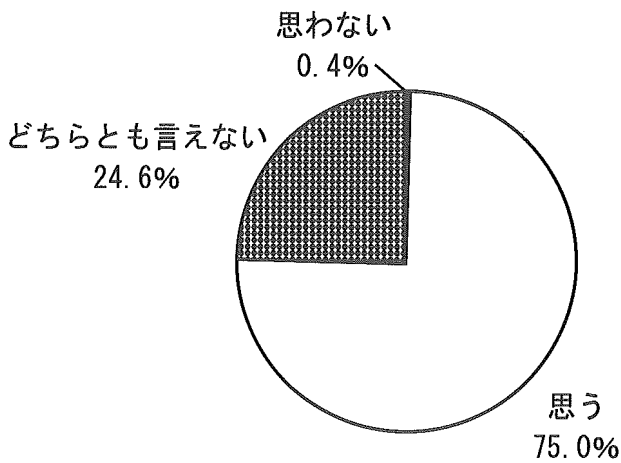


図24 検査結果を聞くまでの不安の有無と今後のセーファーセックスへの姿勢(N=504)

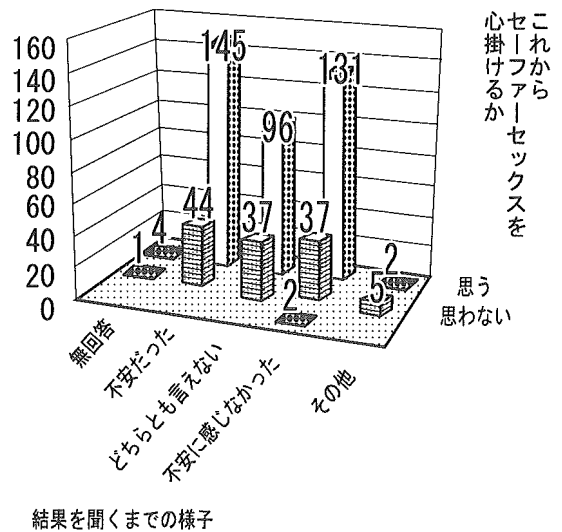


図25 今後のセーフターセックスへの姿勢とパートナーへの抗体検査の勧奨意向 (N=504)

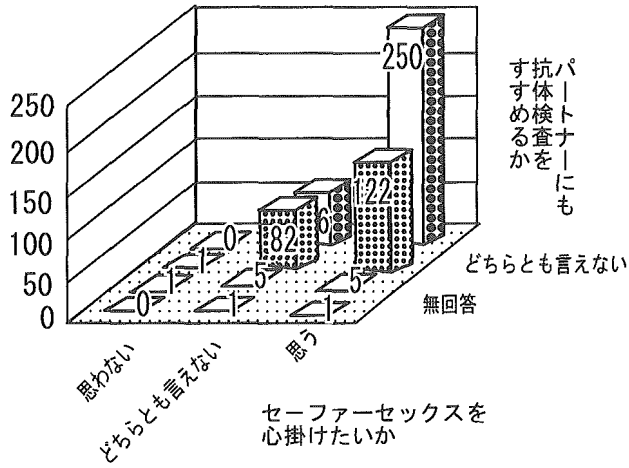


図26 抗体検査後のHIV/AIDSに対するイメージとパートナーへの抗体検査の勧奨意向 (N=504)

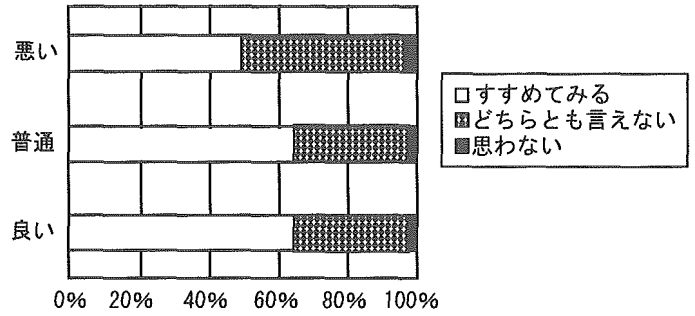
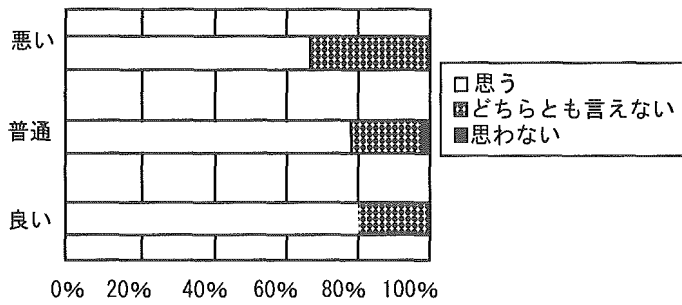


図27 抗体検査後のHIV/AIDSに対するイメージと今後のセーフターセックス(コンドーム使用)への姿勢 (N=504)



検査に関する感想

- ・ こういう機会がなかなかないので、いいことだと思う。
- ・ 一人一人丁寧な話をしてもらえて不安感などがかなり解消し、もしもの時でも病気と前向きに付き合っていこうという思いになった。
- ・ 妊娠して赤ちゃんのためにも受けようと思い検査したが、HIVについていろいろな説明を聞くことができ勉強になった。このような機会がないと受けないので良かった。
- ・ 受けるまで不安があったが、結果を聞いて安心した。プライバシーがしっかり守られているので良いと思う。
- ・ 月に一回であったが、できれば自分の希望する日時に受けられれば良かった。
- ・ 初めは不安だったが、赤ちゃんのために受けてみて良かった。結果がどうであれ安心できた。説明が女性ですごく安心でき良かった。
- ・ 今まであまり関心をもっていなかったが、この検査を受けて身体の中の大切さなどわかり、結果説明もとても丁寧で良かった。
- ・ とても丁寧でプライバシーが保護されていてよかった。
- ・ 個別対応なのでよかった。担当の方も明るく接してくれたので不安な感じは特になかった。
- ・ 不安が取り除けていいシステムだと思う。
- ・ あまり自分からは検査してみようと思わないので受けて詳しいことができて良かった。
- ・ 個人個人違う部屋だったので良かったと思う。
- ・ HIVにかぎってないが、個人により感じ方や理解度が異なるので個別での説明はとても良かった。HIV検査はなかなか受ける機会がないのでできれば定期的に受けても良いと思う。
- ・ こんな風に説明してもらえたら知り合いにも教えたいと思う。
- ・ プライベートというかデリケートな部分の話もあるので、一人一人対応していただいていた。
- ・ 結果がでるまで不安だったが、安心できて良

366人分から抜粋

- かった。
- ・ 妊婦に対して心身ケアが充実しているように思った。
- ・ 必ず死につながると思っていたが潜伏期間のままで延ばせる薬ができていることなど聞けて、知ることができて良かった。
- ・ TVでの報道による情報よりも身近に感じられ、今後の意識づけのために非常に良い機会になった。
- ・ 病院側の取り組みの姿勢に感心しました。この病院で受診できてうれしく思う。
- ・ 大事なことだと思います。いい機会だったと思います。
- ・ 知らなければ知らないまま生活ができ不安はないと思うけど、少しでもそんな話を聞かなければ、やっぱり不安だった。丁寧な説明と質問にもたくさん答えてくれてよかった。
- ・ 自分は絶対大丈夫だと思っていてもきちんと「マイナス」とわかってよかった。
- ・ 説明がきちんと聞いてHIVの理解が深まった。
- ・ 最初は面倒だと思いましたが、良い機会になった。
- ・ 当日結果がわかるのはいいことだと思いますが、待ち時間がもう少し短いといいなと思いました。
- ・ 何となく安心した。
- ・ デリケートな問題だけに1対1で個室ということは安心できた。ただ待ち時間が長いのは気になった。
- ・ いい機会になったし、勉強になりました。
- ・ すべての検査についてこのような体制だとより安心できると思った。
- ・ 検査時間や説明時間がちょうどよかったので、良かったと思います。
- ・ 良かった。きちんと説明を受けられたし、安心できる。HIVに対する偏見もなくなった気がする。
- ・ このような機会でもないと検査を受けること

ができないと思うので良かった。パートナーにもすすめてみようと思います。

・普段検査など受けないので、自分の身体はどうなっているのか不安だったりするけれど、こういう機会に受けれて一つ不安が取り除けた感じでした。

・なかなか機会がないものだから、良かったと思う。

・大きな病院だと「3分診療」などよく言われるが大きな病院にもこのようなシステムの検査があることを初めて知り、よい印象を持ちました。

・行き届いていると思いました。

・個人面接でプライバシーが守られて大変良かったです。安心して検査を受けられました。

・落ち着いて自分のペースでいることが出来たので良かったです。

・とても丁寧な対応で気持ちよく検査が受けられた。ただプライバシー厳守ということに少し過敏なのではないかと思うくらい配慮されていて驚いた。でもこのくらいでないとなんかダメなんだろうと思う。

・考えていたより気楽だったので、特に心配もなく安心できた。

・いい機会に検査を受けられて良かった。

・結果も早くて良かった。こういう機会がなければ、検査は一生しなかったと思う。

・定期的に受けようと思った。

・予約を入れていたし、すぐに結果がわかるのでこれなら受けやすいなと思った。

・子どものためにも安心できたので良かった。

・少し大げさだと思います。でも知らなかったことをいろいろ聞いたので良かったと思います。

・少し不安はあったものの担当のかたがたがとても丁寧に流れ作業的でなく個々のケアをしっかりしてくださったのでリラックスできた。

・自身のためにも子どものためにも必要だと思いました。

・HIVのことは理解したうえでの出産ということでした。他のことも質問できたので良かったです。結果が早いのがよい。

・普段身近に感じないことなのでもっと身近に感じられるように他でも実施すべきだと思いました。（特に男性の方が意識が低いように思う。）

・HIVについて不安がなかったのでどちらとも言えない。

・調べるいい機会だと思う。たぶん自分はきっと大丈夫と思っているから、この先調べることはないと思うので、今回受けてよかったし、その日に結果が出てよいと思う。前後の説明もついているし。

・意外と丁寧で驚きました。

・HIVのことはよく知らないのでまず説明を受け、自分の中のイメージも知識も代わりその後の検査というのはとても良かった。

・ただ陽性か陰性かだけの結果を知らせるよりもHIVの実態を教えてもらえ、理解が深まりました。

・今回初めて受けたけど機会がなければなかなか受けられないし、かかりつけの病院なので安心でした。

・今までHIVのことはTVなどみていて自分もどうかなと気になっていましたが、なかなか自分で受けに行く機会などなくて、今回受けれて良かったと思います。

・安心して子どもが産める。

・初めてなので不安でいっぱいだったが、検査を受けて良かったと思います。より安心しました。

・プライバシーは保護されているから安心です。今まで関心はあったが、検査を受ける勇気はなかったので良かったです。

・一度受けてみたいと思っていたのでちょうどいい機会だったと思います。

・一対一で理解できなかったところなど質問でき雰囲気は良かった。

・他人事のように思っていたけど身近に感じた。

・確認のためにも良かった。料金がかからなかったたってもっと良かった。

・受ける前はすごく不安でなりませんでした。

結果がよかったということと、担当の方がすべて女性だったということも含めて安心しました。

・前日より不安があったがいろいろと一対一で説明していただいたのでとても安心できました。

・普段自分とは感染症を含め関係ないと思っていたが、詳しい説明を受けて少し危機感を覚えた。こういった機会があってよかったと思う。

・プライバシーの保護ができていてよかったです。午前と午後の2回くるのが少し大変だった。

・HIV感染の疑いはないと思っていたが、きっちり検査をすることでより安心が得られよかった。

・結果が出るまで不安でしたが、きっかけがないと検査することもなかったと思うのでよかった。

・プライバシーが守られていいと思う。ひとりひとり説明しているので理解しやすい。検査結果が当日なのでよいと思います。

・自分は大丈夫だと根拠なく思っていたので確信が持ててよかった。また検査することの大切さ、ケアすることの大切さをわかってよかったです。

・個人の方がプライバシーも守られてよいと思った。

・日本も進歩してきたと思いました。

・普段だとなかなか考える機会も検査を受ける機会もないので、病院ですすめてもらえて、受けることができてよかったと思います。

・以前受けてみたいと思っていたが機会がなく今回受けられてよかったし、すぐに結果もわかるということで安心して帰ります。

・当日に検査と結果というのがとてもよかったと思う。すべて丁寧に対応していただい、個人を大切にしている気がしました。

・検査の結果を聞いて安心できたのと、HIVについて今まで自分で思っていたイメージが変わったと思います。

・はじめてだったからドキドキしました。

・皆さんがよく話しをしてくれ、何でも聞ける雰囲気よかったです。自分の聞きたいことが何でも聞けました。

・受けるのは気分的によいものではないけれど、安心して妊娠生活を送っていくには必要だと思いました。

・どのような検査かまた結果に応じた説明が受けることができ、検査の必要性とか身体のことを自分で考えることができるとてもよかった。

・とても落ち着いて話を聞くことができ大変よかったです。

・検査前にもし陽性の結果がでて、きちんと治療して子どもも出産できるという説明を聞いたので安心して結果を待つことができました。ただ無料で検査ができるなら結果を聞くのが遅くてもその方がよいです。

・検査内容がよく理解できた。

・受けることの意味をよく理解でき、非常にためになった。

・出産や母乳を安心してあげられると思いました。

・もし検査結果が陽性だったとしても、病院の体制が万全だということですのですごい不安はありませんでした。

・結果を知ることができて安心できたし、HIVに対する医療の進歩に驚いた。

・採血だけで簡単なのがよかった。

・とても個人を尊重しているのでよかった。

・私自身HIV抗体を持っていないかという不安があったので、今回妊娠をきっかけに検査できてよかった。プライバシーも守られてよかった。

・検査結果を聞いて安心できたこと、また事前の説明で例えば陽性であっても安心して感染しない赤ちゃんが産めることを聞いてよかった。

・HIVに感染すると死ぬと思っていたので、今回検査を受けてみて正しいことがわかりよかったと思う。

・今までまったく興味がなかったけど話を聞いてみると、少しは知識を得ておく必要があるなと思いました。よい勉強になりました。

・まわりに人がいないので安心した。

・自分の身体を知ることはよいと思います。

・プライバシーが守られていてとてもよかった

と思います。私は陰性でしたが、これからの性生活をするときの注意点など教えていただいてよかったです。

事業全体に対する要望感想

- ・やさしくわかりやすく説明してくれたので安心できた。ありがとうございます。元気な赤ちゃんを産みたいと思います。
- ・とてもわかりやすく説明してくれたので安心して聞けた。受けてよかった。
- ・HIV検査は機会がないと自分からすすんで受けようと思わない検査などで本当にいい機会でした。
- ・自分には関係ないという気持ちがあったので、何の勉強をすることもなく間違った知識を持っていました。すごく勉強になった。
- ・HIVがそんなに怖い病気でないような気がした。コンドーム使用の重要性について理解できた。
- ・大丈夫だと自分で思っていた結果がわかるまではなんだか不安だったが、担当の方のお話でHIVに対する認識もずいぶん変わりました。
- ・これからもどんどんこういった方法を取り入れてもらえば患者も安心して信頼してこの病院にこられます。
- ・やはり時間がかかりすぎると思います。
- ・いい機会だと思いました。
- ・誰もがHIV感染をさける生活をしてほしいと思うけど、ちゃんとサポートもあることを知ってうれしくなりました。
- ・今回の話でHIVのことを改めて考えることができました。自分が思っていたこととちがったのでわかってよかったです。勉強になりました。
- ・HIVのイメージが少し変わりました。
- ・この検査は大変よいと思いました。先生とかにすすめられたらまた受けてみたいと思う。
- ・結果が当日聞けるのはいいですが、待ち時間が長いので時間配分を考えてもらいたい。
- ・すっきりしました。

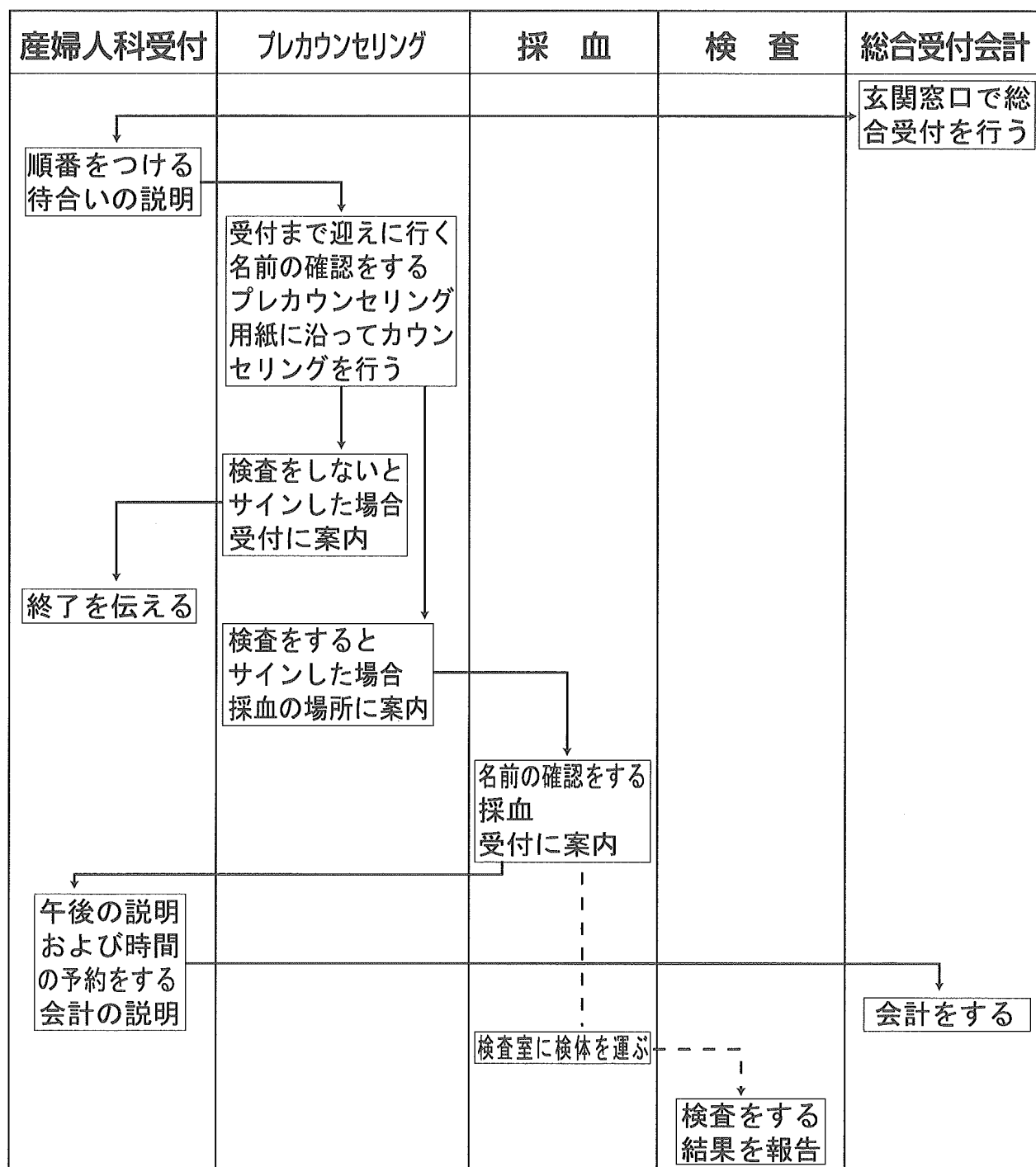
・今まで他人事のように思っていたが、妊娠することにより検査できて結果に応じて対応できるので受けてよかったです。

86人から抜粋

- ・暗い雰囲気もなくわかりやすく、また質問しやすくとても良かったです。良い機会になりました。
- ・このような機会がなければこれから先も検査を受けることはなかったのよかったですと思います。
- ・HIVのことを少し理解でき、自分なりに防御法もわかり、そんなにやみくもに恐れる病気ではないのだなと思いました。
- ・夫婦で検査が受けれていればいいなと思いました。
- ・こういう検査がこれからも続けてほしいです。学校なんかで説明会とかもしてほしいです。
- ・なかなか聞きにくいことが聞けてよかったです。HIVについても自分の意識とずいぶん違うことが驚きました。とても勉強になりました。
- ・検査料を無料にしてほしい。
- ・HIVに関して今まで他人事に関心はあまりなかったが、検査を受けて正しい知識を教えてもらい子どもへの影響の責任やHIVは怖くないということを感じました。
- ・最初は検査を受けるのもめんどいし、不安があったのでもういいかな？と思ったけど受けてよかったと思う。
- ・今回HIV検査を受けて今までは自分には関係ない病気だと思っていたこと、かかってしまったらどうしようもない病気だと思っていた自分が少しはずかしくなりました。

VCT担当スタッフフローチャート

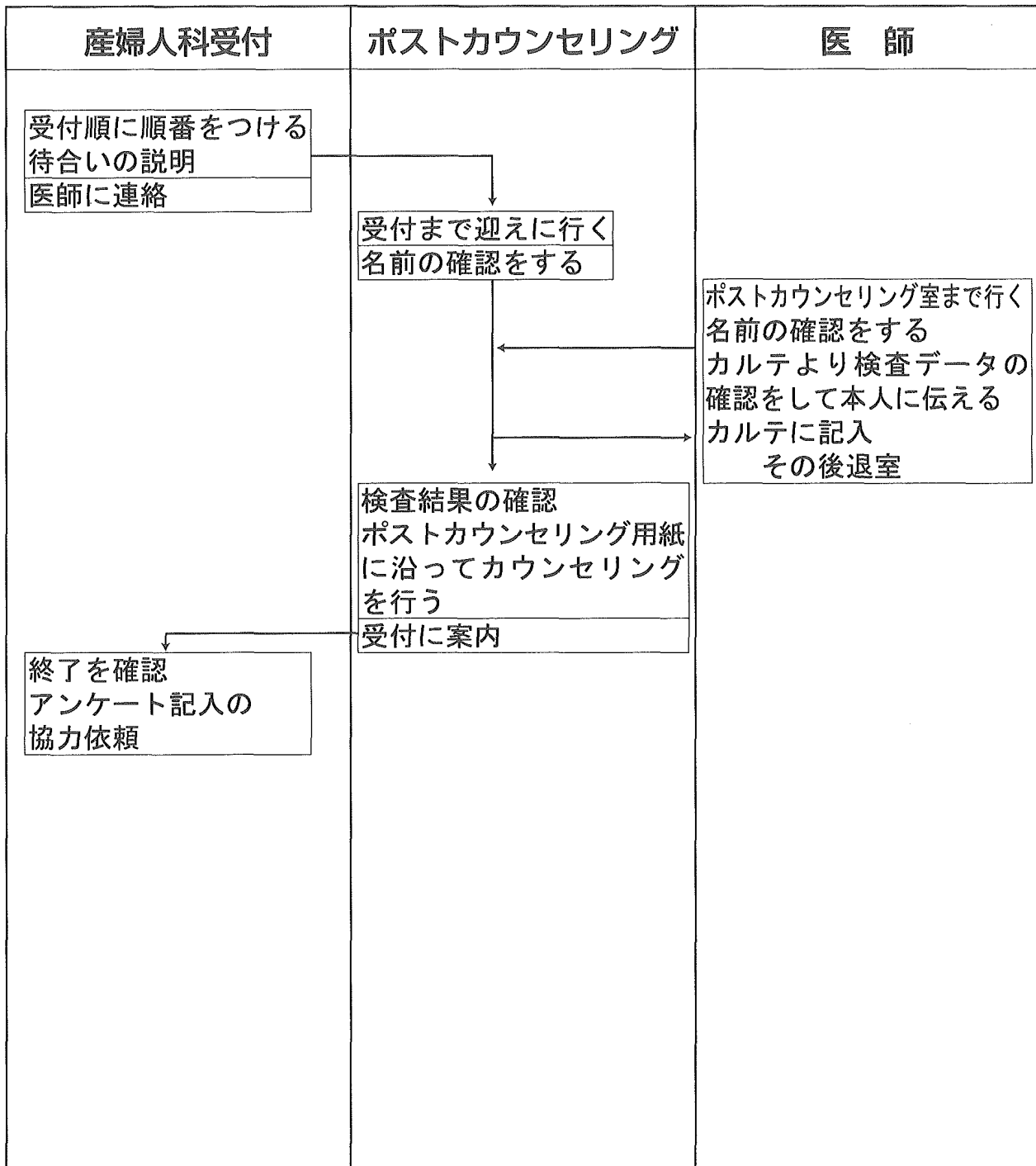
各担当スタッフ フローチャート (当日、午前)



-a-

- 受検者の流れ
- - - - - 検 体 の 流 れ

各担当スタッフフローチャート（当日、午後）



-b-

受検者の流れ

受検者フローチャート（当日）

場 所	時 間	受検者の流れ	備 考
受付 待合 プレカウンセリング	(例)9:00	名前を言って順番を取る ↓ 順番が来るまで待つ ↓ 担当カウンセラーとカウンセラー室に行く 検査の意志を確認 ↓ 検査しないを自己決定 検査するを自己決定 ↓ 結果をとりにくる時間をきめる ↓ 終了を告げられ、帰宅	●外国人・性犯罪被害者等あらかじめわかっている場合、スーパーバイザー、通訳等が対応場合によっては、医師も対応 ●プレカウンセリングやポストカウンセリングで心理的問題が明らかになった場合スーパーバイザーが対応
受付 採血 検査 会計	10:00	↓ 採血をする ↓ 料金、支払い ↓ 昼食を取ったり自由に過ごす	
受付 待合 ポストカウンセリング	13:00	名前を言って順番を取る ↓ 順番が来るまで待つ ↓ 担当カウンセラーとカウンセリング室に行く 医師の告知 カウンセラーによるポストカウンセリング	●要確認検査の結果告知はポストカウンセリングから ●陽性告知の場合本人が心理的に落ち着くまで在室
受付	14:00 14:00～	↓ 終了を告げる、帰宅 ↓ 要確認検査の場合、本人が落ち着くまで在室 ↓ 受付を通らず、帰宅	

分担研究報告書

第3部 三次予防

感染者のQOL向上を目的とした口腔保健管理

病院歯科におけるHIV陽性者ならびに
ウイルス感染症患者の歯科診療受入状況と
感染予防対策の現状

病院歯科における HIV 陽性者ならびにウイルス感染症患者の 歯科診療受入状況と感染予防対策の現状

主任研究者： 五島 真理為 特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター 理事長
研究協力者： 新庄文明 特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター長崎支部
福田英輝 長崎大学大学院口腔保健管理学分野
稲田浩平 同上

研究要旨 日本病院歯科口腔外科協議会の会員を対象として、歯科医療機関における受入れの現状に関する調査を行い、47%の回収された回答について分析した。HIV 感染者の診療は44%が経験を有していた。今後の HIV 感染者あるいはエイズ患者の受入れ姿勢については23%が「通常どおり治療する」と回答し、昨年度までに実施した診療所歯科医師の回答と大きな差がみられ、タンダード・プレコーションを33%が「実行している」という回答であった。その一方で、肝炎ウイルス陽性者に対する受入れ姿勢との較差は、診療所歯科医師における場合と同様に見られた。なお、エイズ拠点病院の歯科勤務者では、スタンダード・プレコーションに関する実施状況ともに、一般の病院歯科勤務者との大きな較差が確認され、95%が HIV 感染者の受入れ意向を明らかにしていた。

1. 研究目的

感染者の発症予防およびQOLの確保という、エイズ予防の三次予防の段階の一つの対策として HIV 感染者および AIDS 患者の口腔保健管理をはかるために、歯科医療機関における受入れの現状を把握することが必要である。本研究班では、昨年度までに歯科医院における受入れの現状について調査し、現状を報告してきたが、今年度は、拠点病院をも含む病院歯科の現状を把握するために、調査を実施した。

2. 研究方法

日本病院歯科口腔外科協議会の会員のうち大学病院を除き、病院が連絡先となっている歯科医師290名の全員を対象として、平成18年3月に調査票を郵送し、無記名で回答記入を依頼し、郵送にて回収した。今回は平成18年5月末までに回収さ

れた回答を分析の対象とした。回収は、送付部数の47%にあたる137件であった。

分析には統計パッケージSPSSを利用した。

3. 研究結果

1 歯科医師の感染に関連する経験

HBについては「ワクチンを受けた」が73%、「自然に抗体陽性となった」が22%であった。「検査なしのため不明」が5%あったが、ほとんどが抗体陽性であった。

これまでに「感染可能性のある事故」を自身が経験したのは52%であった。また、58%が感染予防の研修に参加したという回答であった。「患者から感染予防や歯科治療での感染の可能性について問合せ」を受けたことがある者は24%であった。

2 感染者の診療経験について

血液由来感染症が明らかな患者の治療後の器具

の扱いについて、「区別して滅菌・消毒する」が69%で、「通常どおり」は21%、「出来る限り廃棄」という回答が10%であった。

「感染が明らかな患者」の診療経験については、ウイルス性肝炎感染者の場合は「通常どおり治療した」という回答が34%、「配慮して治療した」が66%であったが、HIV感染者の診療の経験については、「全くなし」が49%、「断るか他院を紹介した」が7%、「配慮して治療した」が31%で、「通常どおり治療した」が13%であった。

3 感染が明らかな患者の受け入れ意向

A型、B型およびC型肝炎の感染者の受入れについて「治療を断る」はそれぞれ1%、「配慮して治療する」が、50%、63%、62%で、「通常どおり治療する」という回答は、A型が50%、B型およびC型の場合は36%であった。一方、HIV感染者あるいはエイズ患者の受入れについては、「治療を断る」がいずれも12%、で「他院を紹介」「配慮して治療」がそれぞれ20-40%、「通常どおり治療する」は23%および20%であった(図1)。

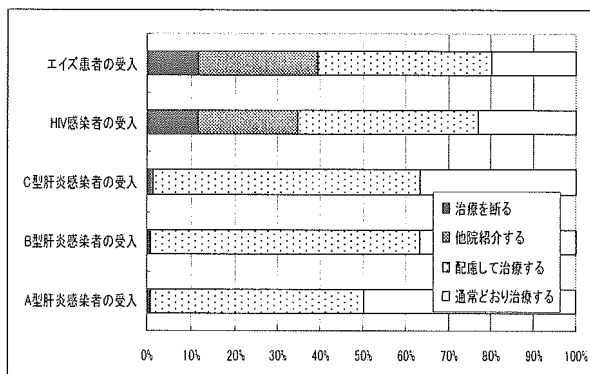


図1 感染が明らかな患者の受け入れ意向

4 感染予防の原則に関する認識

スタンダード・プレコーションあるいはユニバーサル・プレコーションに関する認識については、「聞いたことなし」がそれぞれ11%と14%、「聞いたことはあるが正確な内容は知らない」が15%、13%の回答にみられたが、「理解している」が33%と40%で、「実行している」という回答がスタンダード・プレコーションについて41%、ユニバーサル・プレコーションについて32%であった。

5 感染予防の原則に関する認識と受け入れ意向との関連

スタンダード・プレコーションに関する認識状況別に HIV 感染者の受け入れ意向の割合をみると、ユニバーサル・プレコーションを「実行している」という回答群では「一般患者と同様に対処する」という回答が44%であり、「配慮して診療する」と併せると86%が受け入れ意向を明らかにしている。一方、スタンダード・プレコーションについて「正確な内容不明」という回答群では、これらの割合が少なくなり、「聞いたことなし」という回答群では「一般患者と同様に対処する」という回答が6%で、「配慮して診療する」と併せても受け入れ意向を明らかにしているのは40%未満であった(図2)。

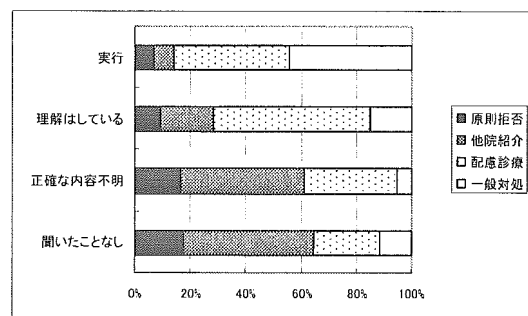


図2 感染予防原則(スタンダードプリコーション)に関する認識状況別にみたHIV感染者受け入れ意向の割合

これらの割合はB型肝炎ウイルス感染者の受け入れ意向についてはかなり状況が異なっている。「配慮して診療する」あるいは「一般患者と同様に対処する」の割合が、併せてほぼ全数となり、「理解

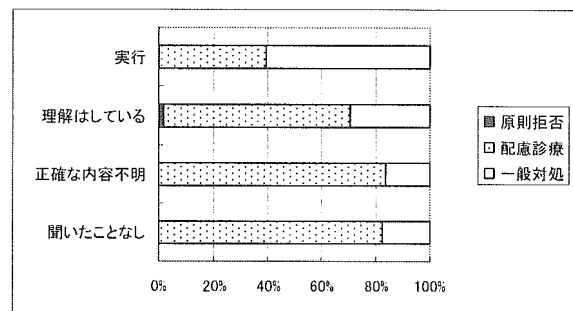


図3 感染予防原則(スタンダードプリコーション)の認識状況別にみたB型肝炎ウイルス保有者受け入れ意向の割合

はしている」という回答群では「一般患者と同様に対処する」の割合が30、「実行している」という回答群では60%であった(図3)。

6 エイズ拠点病院の歯科とその他の機関の比較

回答の137件中、41件はエイズ拠点病院から、93件が「その他」の病院から、3件は無記入であった。

スタンダード・プレコーションに関する認識について、拠点病院では約半数が実施しているが、わずかながら「聞いたことが無い」「正確な内容は知らない」という回答があった。一方、拠点病院以外からの回答では「実行している」という回答の割合は拠点病院の約半分であり、3分の1以上が「聞いたことが無い」あるいは「正確な内容は知らない」という回答であった(図4)。

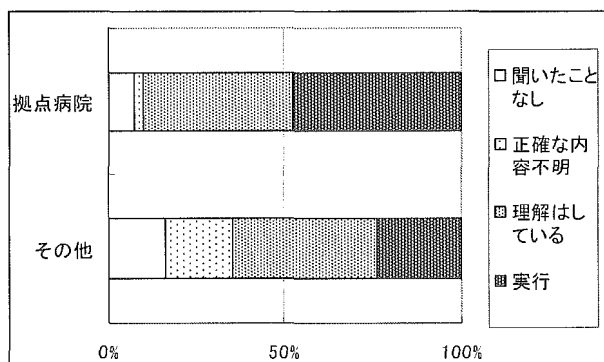


図4 拠点病院とその他の施設からの回答別にみた感染予防原則(スタンダードプリコーション)への認識状況

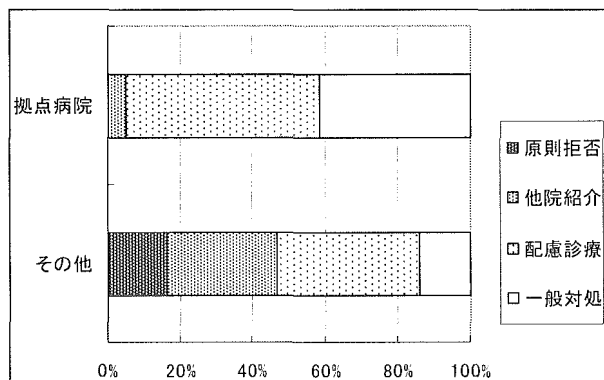


図5 拠点病院とその他の施設からの回答別にみたHIV陽性患者受入れ意向の割合

HIV感染が明らかな受診患者の診療受け入れ姿勢については、拠点病院では「一般患者と同様に対処する」という回答が42%で、「配慮して診療する」と併せると、95%が受入れ意向を明らかにしていた(図5)。一方、拠点病院以外からの回答では「一般患者と同様に対処する」という回答が14%、「配慮して診療する」が39%で、両者を合わせて約半数であった(図5)。

4. 考察

歯科医師の感染に関連する経験について、これまでに「感染可能性のある事故」を自身が経験したのは、前年度に実施した診療所歯科医師の場合は49%であったが、病院歯科医師は52%で、わずかに多かった。感染予防の研修に参加したという回答は、診療所歯科医師の場合は37%であったが、病院歯科医師は58%と、かなり多かった。

HIV感染者の診療の経験については、診療所歯科医師の場合は8%が「あり」であったが、病院歯科医師は半数以上が「あり」で、44%が治療した経験を有していた。

今後のHIV感染者あるいはエイズ患者の受入れ姿勢についても、「治療を断る」が診療所歯科医師の場合は27%であったが病院歯科医師は12%、「通常どおり治療する」という回答が、診療所歯科医師の場合は6%であったが病院歯科医師は23%であった。このように、診療所歯科医師と比較して、診療受け入れ姿勢には大きな差がみられたが、A型、B型およびC型肝炎の感染者に対する受入れ姿勢との較差は、診療所歯科医師における場合と同様に見られた。

感染予防の原則に関する認識、つまり、スタンダード・プレコーションに関する認識についても、診療所歯科医師と比較すると、「理解している」、が診療所歯科医師の場合は13%であったが病院歯科医師では33%、「実行している」という回答が診療所歯科医師の場合は4%であったが病院歯科医師では41%であった。

このように診療所歯科医師との対応や意識の格差がみられるのは、単に病院勤務という立場だけでなく、対象者の多くが「口腔外科」の経験を有

していることとも無関係ではないであろう。

ただし、感染予防の原則に関する認識と受入れ意向との間には、HIV感染者受入れ意向の割合には、診療所歯科医師にみられたような関連が見られた。B型肝炎ウイルス感染者の受入れ意向について、ほぼ全数が受入れ姿勢を示しているが、より感染力の弱いHIVについて拒否的な姿勢が見られる。

本研究の他の項目においてもふれたように、歯科臨床現場では、スタンダードプリコーションあるいはユニバーサルプリコーションについて、理解された場合でも、それを実際に実施するには、大きなBarrierがあることが確認されている。その背景には、原在の感染予防の内容では「万全」ではないという認識のほか、それぞれの疾患に対するイメージあるいは偏見が影響していることは否定できない。「感染者である可能性」と「明らかな感染者」という感染者としての確率だけが根拠であれば、HIVに対する拒否的な反応が、より感染力の強いB型肝炎ウイルスに対する場合よりも大きいことを説明しないからである。

エイズ拠点病院の歯科とその他の機関の比較においては、スタンダード・プレコーションに関する実施状況、ならびにHIV感染が明らかな受診患

者を「一般患者と同様に対処する」という回答の割合には大きな較差が確認された。一般の病院歯科では、半数強の52%が、「配慮して診療する」あるいは「一般患者と同様に対処する」と、何らかの受入れ姿勢を示しているのに対して、拠点病院の歯科勤務者は95%が受入れ意向を明らかにしていた。これらも、これまでの診療経験や診療に対する要望が受け入れ意向に影響するという、診療所歯科医師を対象とした調査結果にみられた傾向を裏付けるものといえよう。

5. 結論

病院歯科の勤務者の44%がHIV感染者の診療経験を有しており、今後のHIV感染者あるいはエイズ患者の受入れ姿勢については、23%が「通常どおり治療する」と回答した。スタンダード・プレコーションは33%が「実行している」と回答し、たが、肝炎ウイルス陽性者に対する受入れ姿勢との較差が見られた。エイズ拠点病院の歯科勤務者では、スタンダード・プレコーションに関する実施割合も大きく、95%がHIV感染者の受入れ意向を明らかにしていた。

2004. 12. 3

毎日新聞 (97頁) 東京都新聞社

HIV感染者

歯科医の1/4診療拒否

【厚労省研究班調査】

B型肝炎、2%なのに

「B型肝炎は怖い」という偏見が、歯科医の診療拒否の原因となっている。厚労省研究班の調査によると、B型肝炎ウイルス感染者に対する診療拒否率は2%と低いものの、HIV感染者に対する拒否率は1/4に達している。また、HIV感染者に対する診療拒否率は、一般歯科よりも、エイズ拠点病院の歯科で顕著に高かった。

厚労省研究班は、全国の歯科医師を対象に、B型肝炎ウイルス感染者に対する診療拒否率を調査した。その結果、B型肝炎ウイルス感染者に対する診療拒否率は2%と低いものの、HIV感染者に対する診療拒否率は1/4に達している。また、HIV感染者に対する診療拒否率は、一般歯科よりも、エイズ拠点病院の歯科で顕著に高かった。

東京都衛生局保健課 (局) 5 課

厚生労働省健康局歯科保健課

厚生労働省健康局疾病対策課

歯科医療機関におけるHIV感染者等の診療体制について (抜粋)

先般、厚生労働省研究班が歯科医療機関等の歯科医師を対象に、濃記の診療体制に係る調査を実施したところ、一部の歯科医師においては、HIV感染者等に対し「診療を断念して断る」旨の回答をしていることが報告されたところである。今後はこのような事例が出ることを懸念し、HIV感染症についての正しい理解を促し、適切な感染防止策を講ずることを通じ、HIV感染者等に対する歯科医療の確保を図ることが重要である。

貴院に当たっては、貴管内の歯科医療従事者その他関係者等に対し、下記の事例について周知徹底を図り、適切な診療体制の確保が図られるよう、必要な指導をお願います。

平成16年厚生労働省研究費補助金・エイズ対策研究事業の成果として作成した「HIV感染症の歯科治療マニュアル」並びに2003年12月に米国CDCにより発行された「Guidelines for Infection Control in Dental Health Care Settings」(MMWR December 19, 2003/52 (RR17):1-5) の内容について周知徹底を図ること。